

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	群馬大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	地域・大学院循環型保健学リーダーの育成		
主たる研究科・専攻名	医学系研究科保健学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科・専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 村上 博和		

### [教育プログラムの概要]

全国でも複数の分野からなる保健学博士課程を設置する大学は少なく、また設置からの歴史も浅いため、保健学大学院修了生が社会へ果たす役割は限りない可能性を秘めている。本プログラムは、保健学の重要な柱である地域活動と教育との一体化を目指す、保健学領域での先端的取り組みである。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における地域保健学研究のシーズを所属機関内の共同研究プロジェクトと位置付ける。大学院修了後は地域において保健医療実践と保健学研究の推進役割を果たす「地域保健学リーダー」を養成するものである。

**<地域の現状とこれまでの大学の取り組み・課題>** 現在の地域保健医療現場においては、大学院教育を受けて就職する保健医療従事者数は絶対的に少なく、高度な専門職業人としてスキルアップを図るリカレント教育の重要性が叫ばれている。一方、本学保健学科の教員は、これまで個々のレベルで共同研究や地域貢献活動を積極的に実施してきており、地域住民主導による介護予防『鬼石モデル』等、全国的に評価されている活動も存在する。しかし、教員が地域に対して直接的に働きかけるだけでは限界があり、地域側に優れた保健医療実践と保健学研究を実施できる核となる人材が不可欠といえる。本学の保健学博士取得者が13人のみであることから、学位をもって群馬県で地域保健医療を推進できる人材育成が急務である。

**<これまでの大学院教育の現状と課題>** 保健学専攻では、設置当初より社会人特別選抜や昼夜開講制により、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきた。そのため、本専攻の学生は前期課程の約6割、後期課程の約8割が社会人学生である特徴を有し、地域保健医療に従事している学生が地域保健医療の向上に貢献することを大きな目的としている。しかしながら、これまでの社会人学生は大学院修了時点で研究能力向上は図れるものの、修了後に戻った所属機関内で研究の指導・推進役を果たしているとは言い難い現状である。そこで、このような現状を改善し、地域保健医療の現場で役立つ人材を育成することが必要である。

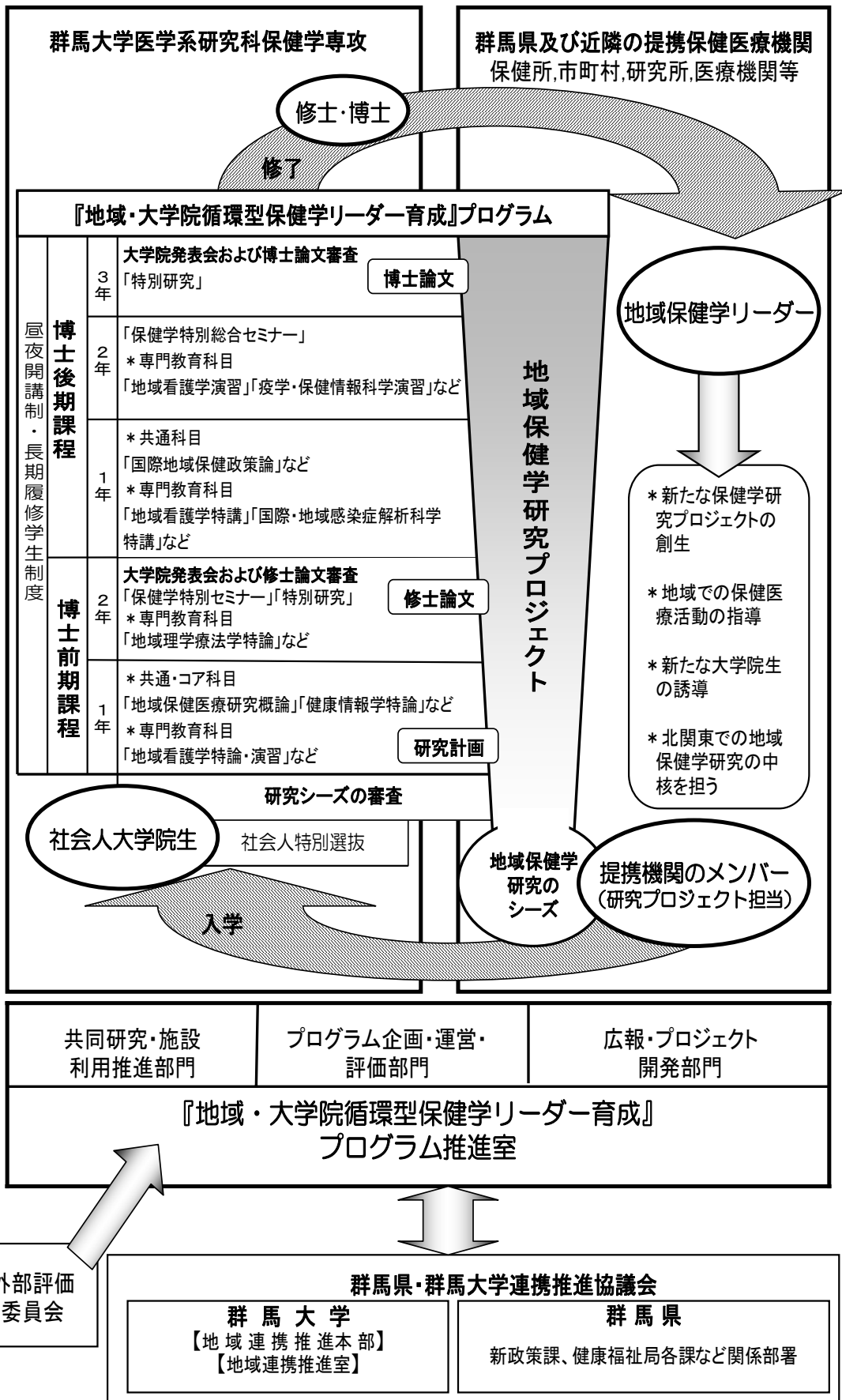
**<本教育プログラムの特徴と意義>** 本教育プログラムでは、社会人学生が所属機関における地域保健学研究のシーズを取り上げ、「地域保健学研究プロジェクト」として遂行する。そのプロセスを活用して以下の能力を同時に体験的に修得させる教育を行うことが特徴である。

- ①地域保健学研究のシーズから研究計画を立案し、成果を地域に還元する<研究能力>
- ②所属機関で研究メンバーを組織し、そのリーダーとなって研究を遂行する<指導能力・調整能力>

さらに、本専攻は、関東唯一の看護学、検査技術科学、理学・作業療法学の博士課程まで有する大学院である。その利点を活かして、学生に自身の専門以外の領域についても幅広く学修させることによって、幅広い知識と高い視野を持った地域保健学リーダーを育成できることも特徴である。

本教育プログラムにより、修了生は所属機関に戻り、“新たな地域保健学研究の創生”、“地域での保健医療活動の指導”、“新たな大学院生の誘導”の役割を果たし、さらには“北関東での地域保健学研究の中核を担う”人材となることによって、『地域と大学院との循環』が期待される。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地域に貢献できる保健リーダー」を養成するという人材養成の目的が明確化されており、それに向けての教育課程の編成も優れている。加えて、社会人への履修上の配慮なども含め、学生支援体制も整備されている。

教育プログラムについては、幅広い視野で公衆衛生や保健医療福祉に関する深い知識、技術、技能の研究法を修得する実践と研究能力を有した人材養成プログラムとなっているが、大学院教育改革の観点から、計画の実施に関しては、保健学のみならず、医学等の参画も考慮するなど、より充実化が望まれる。

また、保健学専攻として、地域保健研究に特化してシーズを調査しつつ、研究プロジェクトを発展させようとしているが、研究内容を具体化することも望まれる。